

◆聞き取り調査

調 査 日：平成26年3月29日

聞 き 取 り 者：T.K（樺太アイヌ＝エンチウ）

聞き手：T.Kさんのお父さんは、エンチウのかた？

T.K氏：私の父は日本人。母のほうにエンチウの関係のかたがいらっしやって。

聞き手：T.Kさんは何人兄弟？

T.K氏：2人姉妹。姉と私。

聞き手：T.Kさんの生まれは？

T.K氏：札幌。

聞き手：何年生まれですか？

T.K氏：昭和〇〇年（昭和30年代前半）。

聞き手：お母さんがいろいろわかっていたけど、いやだったのもあるし苦労してきたのもあるから…。

T.K氏：でもはっきりは言わなかった。なんとなく…小学校とかにそれとなく、腕が毛深いから友達が…（聞き取れず）…小学校のときに言うんです。そしたら親がドキっとしてオキシドールでふいたら赤くなるよとか、みんな兄弟とか家族とか毛深い人が多くて悪かったねとか。親は、それとなくは…チラっとは言っていて。親の兄弟が遊びに来た時に、引き揚げた時の話をしたりとか、聞いてたり…子ども心でそれとなく、何かあるなあとは感じてたけど、でもはっきり言わなくて。中学校くらいの時になんかの話で、そういうアイヌ問題のことも学校で学んだし、うちはどうなんだろうね…って話を、けっこうまじめに振ったときに、先祖にはアイヌがいるって言ったんです。そしたら、母親の父親がハーフ…って言ったんですよ。…って言うのは、じいのさらに父親が、日露戦争で日本が勝ったから樺太に行った時に、綺麗な女の人と結婚して生まれたのがじいさんだって言うの。じいさんがハーフで、母親はクォーターで…って話を

してたんです。

だけど、10年前に樺太に行った時に…博物館に行った時にそれが違うってことがわかったんです。…っていうのは、写真が貼ってあったの。ひいおじいさんの写真が。役人かなんか…地元の。それが…一緒にいた79歳の関東の友達が、あんたのひいじいさんが写ってるから見てごらんって。見てみたら、見事な民族衣装を着てて。違う女性とおばあさんとおじいさんと、こっちのおばあさんという人が友達の人のおばあさんで…こっちのおじいさんは、私のひいおじいさんだったの。そしたら話違うなあって。母親は、ひいおじいさんって人は本州の人で、日露戦争は…日本勝ったんで、開拓で本州から樺太に行って、現地で綺麗な女性と知り合って…現地でエンチウの人と…っていう話をしてたと。違うんだったんだなー。立派なまぎれもないエンチウの人だし、お母さんは友達のほうのおばあさんだけど、ひいおじいさんと結婚した人も地元の女性だと思うんだ。明治9年に北海道に引き揚げてきた人の名簿の中に、それらしき名字が載っていたってのがいろいろ調べてたらわかって…やっぱり明治9年に強制移住で来てたんだってわかって。日露戦争に勝って「わーいわーい」…って北海道から樺太に戻ったんだなって、それを母親は日露戦争勝ったから開拓で行った日本人だって言ったんだなって、それがわかったのが2年くらい前。バスツアーがあって、それをTさんが中心になって、バスに乗ってマイク持って「こんな名簿を実際に載せるって、なんたることだ。個人情報時代に」…って、すごい激怒してる人がいるなって。そこからTさんと知り合って調べてたら、たぶん母親が言ってたことは嘘で…エンチウの人で、そこに生まれた私の祖父っていう男の人が結婚した人が、子どものころからお世話になってた祖母だから…その人は青森県人だっていうのは聞いているから、母は青森県人と樺太の人とのハーフらしいんですよ。福島から…本州の日本人どうしの結婚した子どもだって聞いているから。

母親はご近所からびくびくしたり、子どもが学校行ったらいじめられやしないかとか、自分たちの子どもどうしの兄弟のことを戦後引き上げていったもんだから、ばあさんが子ども連れて、そっからみんな嫁さんに札幌行ったり、静内に住んだ男たちはなんだかんだいじめにあっただけらしいんですよ。なんで…静内に住んでるだけで、いじめにあうのは不思議だなって思ってたんだけど。樺太から引き揚げてきた孫っていうだけで、なんでいじめにあうんだろうかって。そっちのほうに住んでた子は、なんとなく、それなりにちょっとは事情が周りに知れてたりなんかしたっていうのがあったのかな…って。樺太から来た孫だからかなあ…って。

聞き手：お母様は何年生まれ？

T. K氏：昭和〇年（一桁年代半ば）生まれ。もう亡くなってるけど。

聞き手：お母さまは、家で刺しゅうしてたとか？

T. K氏：そういうの、もっと早く教えてくれてれば…って思ったけど、いっさいそんな話は家族にはしなかったし、兄弟たちがひそひそ話したり、重要な話みたいなのを聞いたりしてたけど。私は樺太に2回も行っていろんなことして、母から聞いたことと…大体のことはわかってきたけど。私がまた余計なこと言っても…いつか言ってあげたいけど、博物館で写真あるし立派なの見せてあげたい。地元の名士で、すごく力ある人だったんだよって。すごくハンサムで立派な人だったんだよって。新聞とかに載ったとか…記事が載ったり。

聞き手：お母さまは、どこの生まれかわかります？

T. K氏：樺太の東海岸。そこはのどかな村で戦争もそんな激しくなかったし…西海岸側のほうは激しかったから、大変…命からがらだったけど。

聞き手：お母さまは何人兄弟ですか？

T. K氏：6人くらいかな。

聞き手：T. Kさんは幼いころからわかっていたけど、樺太にしようと思ったきっかけはなんですか？自分の先祖のこと調べようとか。

T. K氏：そのころは、全然そんなこと考えてなかった。父親たちの同窓会を樺太で…最後に小学校の同窓会をやるのに行くって言って、ちょっと病気のこととかもあって心配だから、旅費を出してくれればついていくよって、海外旅行でついて行った感じ。最初は海外旅行に行く感じだったけど、博物館行ってカルチャーショックを受けた感じになった。父はそんなに…「そっかあ？」っていう感じで、やばいもん見せちゃったなってのはあったけど。同級生のおばあちゃんが、これあんたのひいおじいちゃんて名前も出てるって。ひいじいちゃんが日本人って聞いてたのに、きれいな妹のエンチウの女性と結婚してどうのこうのってしか聞いてなかったのに。びっくりした。

聞き手：そのときはいやだったとか？うれしいとかは？

T. K氏：ただびっくりしたのと、母がやっぱり言いたくなかったのと。隠してた中で、苦勞とか自分たちを隠してくうえでこうしたほうがいいなって。引き揚げて来た時のことを知ってる人も近所にいるし。わたしの親族なんかでも…。

聞き手：じゃあ、その同窓会でいろいろわかって、もっと知りたいと思ったんですか？

T. K氏：そっからいろいろ調べたり、勉強して本で調べたり…そしたら明治9年に強制移住させられて、樺太からすごい数の人が…稚内に住みたかったのに無理やり江別に連れてこられて、病気でバタバタ死んだり…去年だったかな、慰霊祭に参加したの。

聞き手：それまではアイヌ協会の会員ではなかったんですか？

T. K氏：全然。初めて行った時に「毎年慰霊祭ありますので、お参りしたい方はぜひ」…ってTさんから聞いて。

聞き手：T. Kさんは、結婚されてから江別に住んだのですか？

T. K氏：そうです。

聞き手：お子さんは？

T. K氏：3人。

聞き手：エンチウだってことは知ってますか？

T. K氏：全然知らない。

聞き手：縫い物とかはしてみたくありませんか？

T. K氏：好きだけどね。トンコリ（アイヌの弦楽器）とかやってみたいけどね。慰霊祭行った時にNさんに「着物着てみないか？」…って言われたけど、そんな知識もないし、そんな身分じゃないからって思ったんだけど。

T. K氏：Tさんに、同じ年代の樺太の人で集まりを持ってくれたらわたしも参加した

いって…4人でも5人でも…どういうふうな子ども時代だったとか意見を聞いてみたいって言ったんだけど、ちょっとなかなかカミングアウトしてる人が少なくて。だけどTさんの本見たら、写真に何人が写ってたから何人かはいるんだろうなって思ったけど。

T. K氏：20年くらい前にTさんが映ってたテレビを見て、母親に稚咲内って知ってるか聞いて聞いたら、知らない…全然知らないって。したら、樺太に10年くらい前に行った時に…母の「また従兄弟」にあたる人かな？その人が稚咲内にいて、その人の子どもとTさんが同級生で「えー、あのおばちゃん知ってるの？あのおばちゃん、同級生のお母さんだよ」…って。

聞き手：幼いころの生活はどうでしたか？

T. K氏：都会の中に住んでたし、親も忙しく暮らしてたし、普通の生活だったから…縫い物とかも見たこともないし。

聞き手：T. Kさんのおばあちゃんとかの生活の基盤は？

T. K氏：樺太にいた時は農家と…土地が広がったから、生活に困ってなかったかな。若くして夫が亡くなって、終戦してからのほうが辛かった。お母さんのほうの実家は、学校とか集落があった有名なところ。今度バスツアーの時の写真があるので機会があれば…。